

もも栽培情報 第1号

令和5年3月6日
J A ア ル プ ス
富山県富山農林振興センター

1 概況

園芸研究所果樹研究センター（魚津市）では、「あかつき」の開花始め（2～3割開花した日）を4月4日（R4：4月9日、R3：3月30日、平年値4月10日）と予想しています（3月6日現在）。今後は、開花に向け、病害虫防除や摘蕾等の作業を計画的に実施しましょう。

なお、開花予想は今後の気温に大きく左右されます。現時点での予想より早くなることも想定し、作業を進めてください。

2 病害虫防除

- ・発芽前は縮葉病の重要防除時期となるので、石灰硫黄合剤がしっかりと付着するように散布する。
- ・例年、縮葉病の発生が多い園地では、発芽前までに2回散布（1週間程度の間隔）すると発生抑制効果が高まる。
- ・防除効果を高めるため、天気予報を確認し、暖かく風の無い日に散布する。

（散布量：300ℓ／10a）

回	時 期	対象病害虫	使用農薬	希釈倍率	100ℓ当 必要薬剤量
発芽前 （カイガラムシ類が多い園）		カイガラムシ類	トモノールS	50倍	2 ℓ
1	3月上中旬 （発芽前）	縮葉病、胴枯病、黒星病 展着剤	石灰硫黄合剤 マイリノー	7倍 20,000倍	14 ℓ 5 ml

- ・農薬散布の際は、周辺の他の作物に薬剤が飛散しないよう十分注意する。特に石灰硫黄合剤は色も白くにおいも強いので、飛散防止に努めるとともに、事前に近隣へお知らせするなど、十分に配慮する。
- ・若木の凍害対策でわらやこもを巻いた場合は、石灰硫黄合剤の散布前に一度はずし、散布後、樹体が乾いたことを確認し、再度巻いておく。凍害のおそれがある4月上旬まで（開花直前の防除前まで）は巻いておく。

3 摘蕾（3月中下旬～4月初旬）

摘果作業を効率よく進めるため、4月初旬頃までに実施する。

（1）摘蕾方法

- ・枝の上部（真上に向いている蕾）と下部（真下に向いている蕾）の花芽を落とす（写真1）。
- ・指の腹部分でなぞるようにして、全体の70%程度の蕾を落とす。
- ・葉芽は傷つけないように残す（写真1）。
- ・主枝、亜主枝、伸ばしたい枝の先端50cm程度は、原則、摘蕾する。
- ・10cm以上の結果枝は、先端に果実を成らせないように、先端の花芽も摘蕾する（写真2）。



写真1 花芽と葉芽
(花芽:両側の膨らんだ芽、葉芽:中央の細い芽)

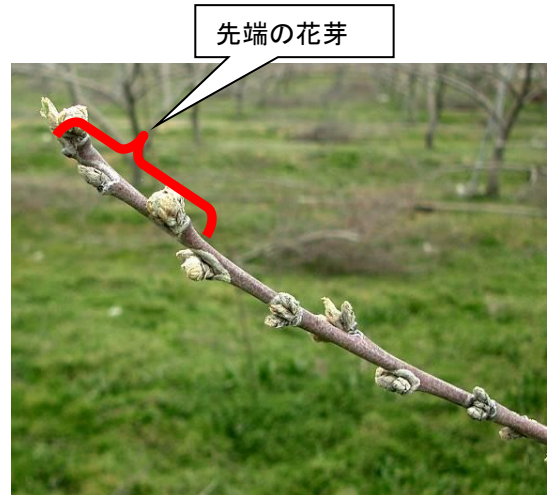


写真2 10cm 以上の結果枝

(2) その他

- ・花粉がない品種(「川中島白桃」等)や花芽の少ない「黄金桃」については、主枝、亜主枝、伸ばしたい枝の先端を中心とした軽めの摘蕾にとどめる。
- ・苗木や定植2年程度の幼木は、すべての花芽を摘蕾で落とす。
- ・樹勢の強い樹や勢いが強い枝等はやや弱めの摘蕾とし、弱い樹や枝はやや強めの摘蕾を行う。

4 その他栽培管理

(1) せん定

- ・石灰硫黄合剤散布前に終える。
- ・切り口には、必ずトップジンMペーストやバッチレート塗布し、胴枯病等の防止に努める。

(2) せん孔細菌病の耕種的防除

- ・発芽せずに枯れている枝(写真3)では、病原細菌が皮部組織内で越冬している可能性があるため、摘蕾、摘花作業中に枯れた枝を見つけた場合は、すぐに切除し、ほ場外に持ち出し処分する。



写真3 発芽せずに枯死した枝